

令和5年度第4回 水道事業及び下水道事業審議会 議事要旨

日 時	令和6年2月13日（火） 午前9時30分～11時20分	
場 所	安城市役所さくら庁舎 第36会議室	
出席者	委 員	齊藤由里恵会長、平山修久副会長、相木孝啓委員、今泉学委員、兵藤好洋委員、神谷美砂委員、菊智ゆき委員、沓名俊章委員、但木美孔委員
	事務局	市長、上下水道部長、下水道課長、下水道課主幹、水道業務課長、水道工務課浄水管理事務所長及び下水道課、水道業務課、水道工務課の課長補佐、係長、担当職員 オブザーバー：オリジナル設計株式会社
次 第	1 会長あいさつ 開会 2 諮問（水道事業） 3 市長あいさつ 4 議題 （1）水道事業 水道事業の現状について （2）下水道事業 ① 経営戦略の見直し（素案）について ② 下水道ビジョンについて 5 その他 能登半島地震 被災地支援活動報告	

1 会長あいさつ

【齋藤会長】

皆様、本日もお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。今年に入って初めての会議となりますが、今年に入ってから様々な出来事がありました。その中でやはり大きいのが、能登半島地震だと思います。特に日々テレビ等においても、水道の給水活動や復旧といったニュースが流れておりますので、より一層、水道下水道事業の耐震化や、災害時のあり方について考える機会かと思ひます。全国の事業体から応急活動や復興支援という形で、安城市さんからも派遣しているということですので、その辺りも情報提供があるのかと思ひますが、被災地におかれましては1日も早い復興を祈っているところでございます。また、その経験を安城市においても活かしていくことが、私達にもできることと思ひております。今回、第4回目ということになりますが、本日は水道事業から水道料金について諮問をいただく予定でございます。新たに水道料金についての審議も始まりますので、皆様には、水道事業の今後ということについても念頭に置いていただきながら一緒に考えていただ

きたいなと思っております。また、下水道事業におかれましてはこれまでこの会議の中でも沢山のご意見をいただきましたが、それをこれまでの経営戦略案に反映や見直しをし、素案ということで、本日の説明をしていただく予定でございます。その件に関しても、手直しを含めてご意見をいただければと思っております。水道ビジョンについても報告をいただく予定でございますので、建設的な意見、建設的な審議をお願いしたいと思います。それでは本日もどうぞよろしく願いいたします。

2 諮問「適正な水道料金のあり方について」

市長から諮問書の交付【受領：齊藤由里恵会長】

3 市長あいさつ

【市長】

本日は、ご多用の中、「安城市水道事業及び下水道事業審議会」にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。諮問をさせていただくにあたり、一言あいさつを申し上げます。この審議会は、昨年度7月から常設の諮問機関として発足し、約1年半ほど経過いたしました。その間、委員の皆さまにおかれましては、水道事業と下水道事業のそれぞれの計画について、貴重なご意見、ご提案をいただきありがとうございます。そのなかで、水道事業の経営戦略につきましては、昨年8月に見直し版を公表したところでございます。しかし、本市の水道事業を取り巻く環境は、短い期間でも一変しており、近年の物価高騰を理由として、愛知県営水道が料金の値上げを実施するとの発表がありました。県営水道から全体の7割の水道水を購入している本市としても、県営水道料金の値上げは支出の増加に直結することです。加えて、1月1日に発生した能登半島地震により、行政が水道水を安定的に供給することの責務を再認識いたしました。市民生活において最も重要なライフラインである、上下水道を守るため、管路や施設の耐震化を適切に進めてまいります。これらのことから、今後も安定した経営を維持していくために、本市にとっての適正な水道料金のあり方について、ぜひ忌憚ないご意見をいただき、暮らしを支え、信頼される水道事業の未来について、ともに考えていただきたいと思います。また、本日の下水道事業の経営戦略については、審議も終盤であると聞いております。最後までご協力いただけますようお願い申し上げます。今後、上下水道事業の推進に当たりまして、皆様をはじめ、関係機関の皆様のお力添えをお願い申し上げ、簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。誠にありがとうございました。

4 議題

(1) 水道事業

水道事業の現状について

(事務局説明)

【齋藤会長】

ありがとうございました。それでは、ただいまの水道事業の現状について、ご質問やご意見等がございましたら発言をお願いいたします。

【委員】

県水と安城市の自己水について、単価はどちらが安いのかということと、もし仮に、安城市の自己水の方が安い場合に、県水対自己水が7対3で供給してるといふ、この割合を、例えば6対4で安城市の水を多く供給するといったことが可能なのか教えていただきたい。

【事務局】

自己水と県水を比較しますと、単価としては、自己水の方が安く作れる状況です。ただ、県水道事業も予定水量を事前に計算して設備投資しておりますので、承認基本水量というものを毎年申請して承認されているのですが、そこで大幅な減量の申請をすることは難しく、やはり県もそれだけの設備投資を回収しなければならない立場となりますので、結果、毎年最低の減少幅を超えない範囲で県水を購入している状況でございます。

【齋藤会長】

それでは他に質問もございませんので、(1)の水道事業の現状については議事を以上とさせていただきます。また、後ほどご意見やご質問がございましたら最後にいただければと思います。それでは次の議題に移りたいと思います。

(2) 下水道事業

①経営戦略の見直し(素案)について

(事務局説明)

【齋藤会長】

ただいま事務局から下水道事業の経営戦略の見直し案についての説明をいただきました。ご意見やご質問がありましたらご発言をお願いいたします。

【平山副会長】

下水道に関しては、国交省の方がマニュアルやガイドラインを示していますし、災害時の下水道BCPなどは示しているので、それに沿ってしっかり対応する必要があると思います。また、国土交通省はウォーターPPP、要は官民連携についても、下水道は

特に、数値目標まで掲げて強く推進してきた経緯もあります。これについては、制度の形が適しているかどうかは別として、浸透はしてきている状況です。官民連携をしないと、上下水道事業については苦しくなっている現状であるとも言えます。経営戦略のロードマップの中で、官民連携や民間企業から学んだ運営方法であるとか、そういうところをどこまで書き込むかというのは議論しておかないといけないと思います。今回そのあたりがどれほど議論できたのかという点で、安城市が非常によく頑張っているなと思うのは、若手の職員で意見を出す取り組みはなかなか他の事業体ではできてない部分があると思います。是非、その様な検討の部分を市民の方にもわかるように、伝えていくことができると非常によいと思いました。ですので、官民連携のウォーターPPPのレベル3.5とか4.0とかをそのままやるのではなく、安城市の下水道事業にとって、どういう形が民間活力を活かしていく意味で効果的なのか、いろんなアイデアで検討していただければと思います。そういう意味からすると、今民間ではPDCAという用語は古くて、DOCAPでとっております。これは、経営を改善していこうと計画を作っていたら、状況が変わってきてしまって意味がないので、トヨタグループでもそうだと思いますが、DOCAPという考え方が大事だと思います。これからはPDCAとDOCAPをうまく組み合わせて考えていければいいのかなと思いました。あともう1点、職員の給料が令和何年かからずっと一緒なんですけど、経済成長するのなら、少しずつでも上昇してもいいのにと感じております。最後はコメントという形での発言です。

【事務局】

まず一点目ですが、民間のやり方をどう活用していくのか検討しているところでございます。委員がおっしゃられたように、国は官民連携を強く推進しておりますが、私どもとしましても、どこまでを任せていいのかという点について課題として認識しており、そういった点を軸に置きながら議論を進めております。その中で、委員がおっしゃられたアドバイスのおり、中堅職員が縦割組織を超えて横断的に連携しながら積極的に議論を進めております。こういったことを、今後皆様に理解していただくにはどのようにご説明差し上げればいいのかという点で、取り組ませていただいている状況です。

次に二点目でございますが、民間企業のスピード感としてトヨタ系企業におけるDCAPについて触れられておりましたが、まさしくおっしゃられるとおりで感じしております。この度の県水の値上げも、能登半島地震もそうですが、不確実性が高まる昨今、どうしても行政の立ち上がりの遅さや対応の遅さについて非難を浴びております。このため、今後とも、このような審議会における企業所属の委員や、民間の知見を参考にさせていただければ大変ありがたいと感じております。それから、最後はコメントとのことでしたが、職員給与につきまして、私どもの給料は基本的には人事院勧告などに基づいて水準を定めております。このため、私どもの裁量では何ともならないところではありますが、委員から大変あたたかいお言葉を頂戴しありがたいのですが、国の裁量が大きいというのが実態でございま

す。

【斎藤会長】

D o C A Pの話もあがりました。例えば、5 1ページの記述について、P D C Aサイクルの理論は大切にしながら事業運営していくけれど、このことに触れつつ、適宜対応するというような文言を挿入できないか、今一度ご検討くださいますようお願いいたします。

(2) 下水道事業

②下水道ビジョンについて

(事務局説明)

【斎藤会長】

ただいまの説明していただきました内容について質問等ご意見をお願いします。

【委員】

全体的な構成の説明を受け、見やすいなと感じたのですが、根本的なところで、皆で検討して作ってきたという経緯を入れてもいいのではないのでしょうか

今こうして頑張って皆で作業しているというものをSNSなどを活用して作り上げていく様を外に対して発信していくということも検討しても良いのではないかと思います。市民は自分の生活に直結していることに関しては興味を湧いてよく見ようとするものです。自分のお財布の中身が気になるように、身近な水に対して興味を持ってもらえるきっかけや瞬間を作ってあげる必要があると感じます。例えば、冊子の中にYouTubeで作った解説動画をQRコードでリンクを貼り付けして、冊子をもっとわかりやすく解説してあげたり、大変なこと、伝えたいことを年齢層関係なく発信していくことも大切なのではないのでしょうか。

【事務局】

非常に有用で興味深いご意見をありがとうございます。これまで我々が行ってきた手法として、パブリックコメントを活用した住民参画が主なものでしたが、この度の委員の意見を参考に検討を深めてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

【委員】

冊子のサイズ感を教えていただきたいのと、全世帯配布などをされるのかどうか、されないのであれば、1枚の瓦版のようなものを作成し、委員がおっしゃられたようにQRコードを掲載して全世帯に配布していくようなことを検討するのがいいのではないのでしょうか。

【事務局】

冊子自体のサイズはA4を想定しています。全世帯配布は、冊子の厚みもあり、予算的に困難ですが、広報を用いた概要版の配布などについて検討させていただきます。

【斎藤会長】

見やすく感じますし工夫が見られます。そういった反面、ペーパーレス化されてきているのでデバイスで見ることも多いのかと感じます。パソコンで見るにはA3横でも見られるのですが、スマートフォンで見るにはスムーズに閲覧できるようなサイズの工夫もあっていいのかなと感じました。予算やマンパワーなどの問題はあるかと思いますが検討を進めていただきたいと思います。

【平山副会長】

二人の委員や斎藤会長からも発言がありましたが、私の考え方として、経営戦略の情報発信は、一般企業の有価証券報告書のようなもので、どういう経営をしているのか、投資しても大丈夫なのかといったところを計るものと考えています。一方ビジョンは、どちらかという、一般市民に広く伝えていくものとして認識しています。このため、デザインや内容に工夫がされているなど感じています。今後、この下水道ビジョンが出来上がればホームページで公開されることになると思いますが、是非、ビジョンの中身に関しては配布するだけでなくWEBでもしっかり発信してほしいです。電子データをPDFでダウンロードできるようにするだけでなく、WEBでの情報発信に努めてほしいと考えます。

【事務局】

これから公表の仕方、メイキングやストーリーについての情報の発信方法についても考えていこうと思います。その際は、パソコンやスマートフォンなど、デバイスに配慮した形での見せ方について工夫していきたいと思います。

5 その他

能登半島地震 被災地支援活動報告

今後の日程について

終了 11:20